



はじめに
〈町長挨拶〉



はじめに 〜町長挨拶〜

浪江町長 吉田 栄光

◆はじめに

早いもので、あの震災から11年半が過ぎました。

私は、これまで16年間県議会議員を経験させていただきましたが、令和4年8月から、皆様のご支援により浪江町長の重責を担うこととなりました。この11年間は、ふるさとを取り戻すために、ただその一心で駆け抜けてまいりました。これからも子ども達の未来に素晴らしい浪江町を残すために全力で取り組んでまいります。

さて、「浪江のこころ通信」は、平成23年7月、「広報なみえ」の再開に合わせて始まり、令和4年3月に終了するまで、延べ466件の掲載件数となりました。「浪江のこころ通信」によって、避難先で町民の方々の状況を知るこ

とができた方は多いと思います。

インタビューにご協力いただいた方々、また記事を書いてくださった方々、本当にありがとうございました。心から感謝を申し上げます。

◆これからの取り組み

現在の町は、道の駅なみえやふれあいセンターなみえなどが完成し、町民の皆さんや外から訪れる方々の交流によって、町に賑わいを感じられるようになりました。

そしてこの度、浪江町に「福島国際研究教育機構（FIREI）」の立地が決まりました。世界の技術者が集い、浪



浪江駅周辺グランドデザイン基本計画



福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R)

江から最先端の技術を世界に発信していくような、素晴らしい施設に育てていく使命感を感じています。この施設は単に町の施設に留まらず、浜通り地域、福島県全体の復興のエンジンとなるものですから、周辺自治体と連携して、しっかりと事業を進めてまいります。

また、「福島水素エネルギー研究フィールド (FH2R)」で作られる水素などの再生可能エネルギーを町づくりに活用し、浪江モデルとして発信していくことにより、町への投資を集め、関連事業に留まらず商業の再生、雇用の拡大へとつなげてまいります。その他にも、中心市街地の活性化を目指し、世界的建築家の隈研吾さんと連携している「浪

江駅周辺グランドデザイン基本計画」の実現、農林水産業の再生など、すぐにとりかからなければならない大事な事業が目白押しです。

また、浪江町の歴史や文化なども、今、守らなければ無くなってしまいう大切なものです。地域に根付いた伝統の歩みを、しっかりと次の世代に伝えていくことも私の大事な仕事だと思っています。

◆帰還困難区域の復興に向けて

11年という時間はとても長く、重いものだから、多くの方々が避難先で家を再建されたり、仕事を得たり、お子さんの学校など、簡単に町に帰ることができない状況にあるのは仕方のないことです。しかし、「ふるさと」への想いは、誰もが同じです。だからこそ、「ふるさと」へ帰りたいという皆さんの想いを何とか叶えたい、何とか現状を変えていきたいと、悔しい気持ちで一杯です。

令和4年9月から室原、末森、津島の特定復興再生拠点区域での準備宿泊が開始されました。これからのことについて、皆さんからしっかりと意見をお聞きし、支援してまいります。

そして、特定復興再生拠点区域以外の地域では、さらに長い時間が必要になります。特に津島地区は、何百年も続く独自の文化や歴史があります。開拓のご苦労、そして原発事

故による避難の多重苦を思うと、本当に心が痛みます。そうした皆さんの気持ちに寄り添い、行政の責任として国と交渉してまいります。

◆農業の発展のために

現在の町の居住人口は、震災前の約一割であり、農業の担い手が足りません。

しかし、私も農家ですが、子ども達に農業を継いでもらうことには抵抗があります。もっと継承しやすくするためにIT化や大規模化など収益性の向上、他地域に対し競争力の高い農業を目指していく必要があると考えています。さらに用水路の保全など、これまで地域で協力して守ってきた仕組みの立て直しも必要です。

町では大学などと連携し、大学生が農作業を実践する場を提供しています。若い感性が原発被災地である浪江での米作りを見て、経験して感じたことを積極的に発信し、多くの若者に興味をもってもらいたい。そうした中から、浪江町に愛着を持ち、農業を始める若者が現れてほしいと思っています。

◆町民の方にメッセージ

「浪江のこころ通信」には、生活の再建に取り組まれる方や復興に取り組まれる方、様々な方々が登場しました。



立入規制の緩和による防災・防犯対策



明るい地域づくりの推進

この11年間は、誰もが必死に生きてこられたことと思います。これからは、それぞれが積み上げたものを分かち合い、結集して、未来に向かって新しい浪江町を作りたいと思います。

町は、福島復興創生をけん引する「福島国際研究教育機構」や「浪江駅周辺グランドデザイン基本計画」の実現、再生可能エネルギーの活用など、次の世代の町を形作る歴史的な事業を抱えています。これからの5年間で次の浪江町を創る大切な時です。皆さんの思い（木）を集め、一緒に素晴らしい森（明日の浪江町）を作っていきます。